

上越

上越支社
 上越市木田1-2-4
 支社案内 23-9700
 報道部 23-9725
 販売部 23-9705
 広告部 23-9710

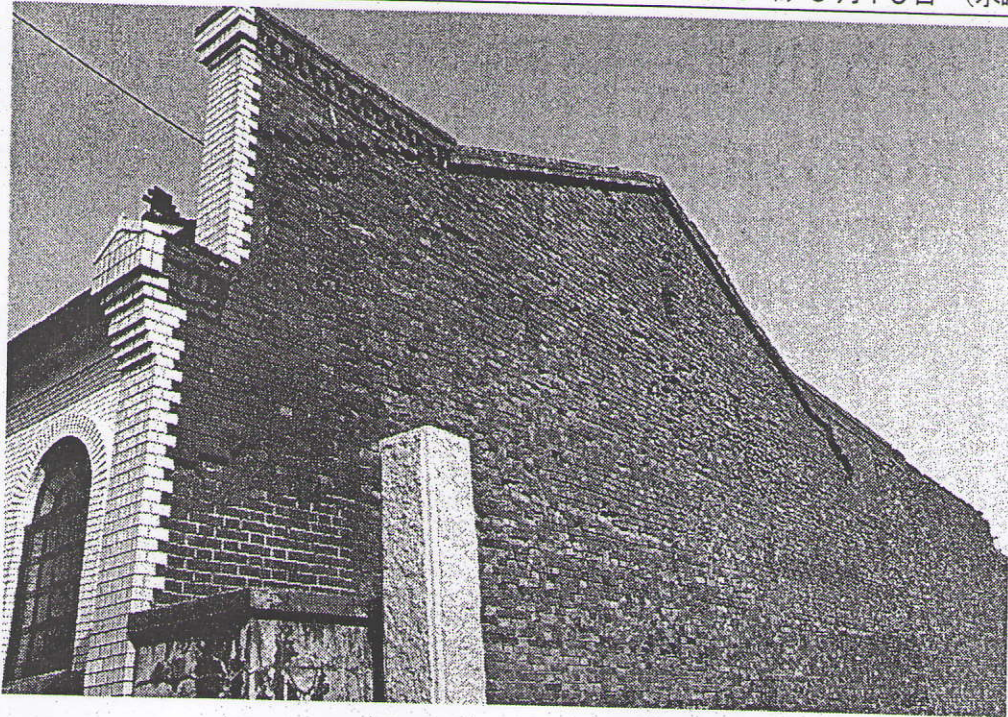
ニュースや話題は次へ連絡ください

糸魚川支局 0255(52)0465
 新井支局 0255(72)2461
 東頸支局(蒲川原) 02559(9)2448
 頸北支局(大 湯) 0255(34)3156

ひろく、ふかく、くつろぎの時間へ。
ホテルセンチュリーイカヤ
 上越市直江津駅前 ☎(025)451-3111(代)

老人ホームなどに
 カラーテレビ寄贈
 県遊戯業協同組合
 日、上越市内の福祉施設に

国府や城下町、港町として栄えてきた上越市は、さまざまな時代の遺物が点在する。歴史と今が隣り合わせの上越は、ぶらり歩きが面白い。路地裏など重窓からは気付かない風景などを訪ねてみた。一回目は赤れんがの残る直江津地区の同市中央。火災が多く類焼を免れるために、火よけで造られたれんがの壁だ。



ライオンの家を、なんとなく近寄り難い家だったという高橋さん。れんがが落ちてくることもあったという上越市中央3の6の31

歩く上越

赤れんが残影

□1□

大火止めた 5層の大壁

ライオンの家

関川河口の左岸に、高さ五層ほどの大きな赤れんが壁が立っている。かつては回船問屋の屋敷や蔵が続いた通り。隣が空き地のためひときわ目立つ。

近所の人は「ライオンの家」と呼ぶ。玄関に雄々しいライオンの石像が鎮座しているからだ。

この高連回漕店は、創業者の高橋達太が大正初めに

た。達太が隣家に接してれんが壁を積ませたのは、類焼を防ぐため。実際、火を止めたことがあった。昭和六年、近所の旅館から出火した火が四十二軒を焼いたときだ。この

直江津銀行の建物を移築した通り。隣が空き地のためひときわ目立つ。高助が土地を買取り、焼け跡に家を新築した。私、壁のてっぺんまで上ったことがあるんですよ」と、高助七代目の高橋信雄さん。壁の前では、男の子はキャッチボール、女の子はけんがを削った粉で絵の具作りをして遊ぶのが常だった。高橋さんは「あの壁見て育ちますからねえ」とため息混じりに言う。



よななこともしていた」との事務員。彫刻は建物の中にもあり、見る人を威圧する。火事の多い土地で、明治昭五十年には自宅を移転まで数百戸単位を焼く大火がよよく起き